

幼稚仔魚調査によるイシガレイの採集量と漁獲加入 動向

福島県水産試験場水産資源部
平成17年度事業報告書

1 部門名 水産業－資源管理－イシガレイ

分類コード 19-04-42000000

2 担当者 山田 学

3 要旨

本県沿岸における主要な底魚類であるイシガレイについて、その資源動向を大きく左右する稚魚分布量を把握し、漁獲加入量を予測した。

平成11年から17年までの7年間では、平成15、16、17年級発生の稚魚採集量が多く、採集数から、稚魚発生量は平成16年級>15年級≒17年級であることが推測された。

採集した稚魚の成長は平成15年級と17年級はほぼ同様であったが、平成16年級は満1歳を過ぎた頃から成長が遅れる傾向にあり、漁獲加入時期も遅れると推測された。

市場調査から、平成15年級は県南部では平成16年1月頃から、県北部では同年6月頃から全長20～28cmで漁獲加入し、その後、平成17年6月頃まで漁獲の主体となっていた。また、この年級の漁獲加入量は平成14年級の2倍程度であったことが推測された。平成16年級は、県南部では平成17年2月頃から、県北部では同年7月頃から全長20～28cmで漁獲加入したものとみられ、平成17年8月頃には漁獲の主体となっていた。その漁獲尾数は平成17年12月現在、平成15年級の2倍程度であったことが推測された。

このように、調査における採集量と其の後の漁獲加入量に相関が見られることから、当該調査によりイシガレイの漁獲加入量と資源の増減動向の予測が可能であることが示された。

なお、平成17年級の漁獲加入水準も良好であると推測されることから、今後の漁獲量はさらに増加するものと予測される。

4 その他の資料など

なし